

第二八回 医学史研究会 合同総会  
日本医学学会関西支部（昭和六十三年秋季）

とき 第一日 昭和六十三年十一月十二日（土）午後一時三〇分  
第二日 昭和六十三年十一月十三日（日）午前九時三〇分  
ところ 阪大医学部二階会議室  
大阪市北区中之島四―三

プログラム

第一日

- 一 要望課題「医療の危機」
- 1 明治期以降の医療「危機」の特質  
..... 神谷 昭典（中京女子大）
  - 2 政府・厚生省の医療政策の検討  
..... 竹中 普久（全国保険医  
団体連合会）
  - 3 開業医層の実情と危機意識..... 大阪府保険医協会
  - 4 医療経営（主として病院）の危機  
..... 小松 良夫（寝屋川市  
小松病院）
  - 5 医療危機の背景にあるもの..... 松田 方一（奈良市  
吉田病院）
  - 6 沖縄医療界の危機..... 照屋 寛善（那覇市  
オリブ山病院）
  - 7 基準看護制度について..... 坂本 女子（看護史研究会）
  - 8 高度医療の中の看護..... 上坂 良子（看護史研究会）
  - 9 医療技術の進歩からみる医療の危機

第二日

- 二 医学史研究会総会
- 10 先端医療と医療の倫理..... 川上 武（関東地方会  
滋賀大）
  - ..... 中川 米造（阪大）
  - 一 一般演題
  - 1 ヨンケルとその母校ウィーン大学医学部  
..... 石田 純郎（三菱水島病院）
  - 2 英国ヘルスサービスについて..... 栗本 宗治（西宮市）
  - 3 中国医学における推拿..... 山本 徳子（横浜市大  
医学部）
  - 4 軍医療学舎（のち軍医学校）とその卒業生  
..... 佐久間温巳（西尾市民病院）
  - 5 福井藩解剖盛行の遠因の探求..... 岩治 勇一（大野市）
  - 6 本草学と行政のドッキング―伊勢の本草仲間―  
..... 茅原 弘（津市）
  - 7 ナイチンゲールの医学統計について  
..... 多尾 清子（藍野学園  
短期大学部）
  - 8 ヒポクラテス集典の「予後論」について  
..... 松田 方一（奈良市  
吉田病院）
  - 9 日本近世医学書にみえる「癩病」観  
..... 横田 則子（立命大・大学院）
  - 10 大坂天下茶屋村の是齋和中散..... 宗田 一（京都市）
  - 11 大阪医学図書館会とその目録..... 寺畑 喜朔（金沢医大）

12 いわゆる『医師殺人論』の再考察

..... 安江 政一 (名 市 大)

13 西南戦争と大阪陸軍臨時病院について

..... 松田 武 (阪大医学部  
環境医学)

14 「大阪砲兵工廠衛生調査報告書」について

..... 小松 良夫 (寝屋川市  
小松病院)

15 ベッテンコーフェル生誕一七〇年をめぐって

..... 丸山 博 (箕 面 市)

二 日本医史学会関西支部総会

札幌医史学研究会

昭和五十六年七月、第八二回日本医史学会総会、学術集会が札幌で開催された。これを機会に、医史を研究している人達の間から、北海道においても研究会を持ちたいとの話がでていた。その後昭和六十一年広島における日本東洋医学会総会で、二年後の総会が札幌で開催されることになり、医史学と東洋医学を両輪に研究活動をしたいとの考えから、札幌医史学研究会が発足した。

発起人代表島田保久、発起人津田晴実、高下泰三、水島宣昭、山岸喬、南雲三枝子、谷澤尚一である。

その後の活動内容を紹介すると、

第一回例会(六十一年八月二日)

講演

蝦夷地の本草と医史について..... 谷澤 尚一

蝦夷地における医史の文献について..... 島田 保久

例会後の懇親会で

一 会費は年五、〇〇〇円とする。

二 事務所は島田外科整形外科医院内におく。

三 例会は原則として年六回とする。

四 蝦夷地について幅広い知識を持つために、例会では他領域の専門家に講演をお願いする。

五 六十三年の日本東洋医学会総会の記念品として『蝦夷地の医療』を編集執筆する。

第三回例会(六十一年十月)

講演 古地図からみた蝦夷地の変遷..... 高木 庄治

第四回例会(六十一年十一月)

講演 アイヌの文学について..... 萩中 美枝

第五回例会(六十二年二月)

講演 黄帝内経を中心にー漢代の医学についてー

..... 赤堀 昭

第八回例会(六十二年八月)

講演 国際語としての日本語・アイヌ語..... 村崎 恭子

第九回例会(六十二年八月)

講演 江戸の博物学ー蒔鞆会を中心にー..... 佐々木利和

第十回例会(六十二年九月)